

令和元年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493700270	事業の開始年月日	平成25年6月1日
		指定年月日	平成25年6月1日
法人名	社会福祉法人藤雪会		
事業所名	市が尾ポポロ		
所在地	(〒225-0014)		
	神奈川県横浜市荏田西3-1-19		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	令和2年2月10日	評価結果 市町村受理日	令和2年4月16日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的でアットホームな雰囲気を大切に、近隣への散歩をして季節の変化など感じながら過ごすこと。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和2年2月19日	評価機関 評価決定日	令和2年3月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の概要】

市が尾ポポロは、東急田園都市線市が尾駅から徒歩10分ほどの閑静な住宅地にある。事業所周辺は道幅も比較的ゆったりとして歩道も整備され、戸建ての住宅の庭には、四季折々の花が咲き、利用者の散歩の楽しみになっている。木造2階建ての1階は、別法人が運営する保育園で、2階部分の1ユニットが当該事業所になっている。事業所には、1日3名、365日受け入れる共用型のデイサービスが併設され、グループホームへの入居を希望する方が利用している。

【地域との連携の歴史】

当事業所は、平成17年3月にNPO法人viviとして当地に開所して以来、前管理者が地域との関係づくりを重視して種をまき、培ってきた歴史がある。現管理者もこれを引き継ぎ、連合自治会の役員会に毎月出席している。また、利用者が老人会や子供の催し物に招かれたり、地域の清掃活動に参加をしたりと積極的に地域活動を行っている。開所から15年が経過し、地域に協力をしてもらうことから、今度は事業所として地域に貢献できることを始めたいという思いで、一昨年8月から地域包括支援センター職員や民生委員の後押しもあり、認知症カフェとして「ポポロカフェ」を始めた。地域で暮らす認知症の方や家族の受け皿、相談場所として、自治会の回覧板で「ポポロカフェ」を案内し、毎月第三日曜日に開催している。

【看取りと見送りの会】

事業所は、ベテラン職員も多く経験も豊富なうえ、医療連携体制も構築されているところから、開所以来多くの看取りの実績がある。今までも看取った後は、利用者が献花をしてお別れの会をホームで行ってきた。今年度の7月に、カトリックの信者の利用者が亡くなれば、家族からホームでの葬儀の希望があった。できる限り希望に寄り添いたいということから、利用者の居室を花で飾り、職員と利用者、他の家族の方も参列をして神父の司式で行った。参列者からは、良い葬儀だったという声があった。家族から、終末期に入院をしても、またホームに戻り看取ってほしいという要望があり、現在入居している利用者のうち8名が当ホームで最期を迎えたいと希望している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	市が尾ポポロ
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分の持っている能力を活かして安全に過ごせるように見守り家庭的な生活を送れる様に支援	理念は3年前に、誰もが覚えやすく、常に意識できるものにしたと前管理者を中心に考え、「利用者さまに寄り添った、安心できる『家』を作ります」を理念とした。もともとアットホームなグループホームで、職員は利用者と家族的な関係づくりをしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	2019年度より2か月に1度、運営推進会議を実施、また認知症カフェ（ポポロカフェ）を毎月開催している。	町内会に加入して、管理者は毎月、連合自治会の役員会などに出席している。管理者は、前任者が培ってきた地域との良好な関係を継続し、かつ発展させることを大切にしている。地域の公園の清掃活動への参加したり、老人会や子供会、町内会行事などに協力し、地域の方と積極的に交流している。事業所から地域の方に向け年2回、「ふれあい昼食会」を開催したり、毎月「ポポロカフェ」を開いて地域の方の相談に乗ったりしている。毎週、傾聴や歌と折り紙のボランティアが来訪している。また、行事に合わせて、そば打ちや、フラダンス、歌やピアノなどの多彩なボランティアの来訪もある。階下の「ピッピ保育園」とは交流を楽しんだり、運動会などの招待を受けたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎週日曜日に公園の自主清掃 毎月第三日曜日は定例清掃にも参加		

4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地域のイベントに参加 もちつき みんなで遊ぼう ふれあい祭り</p>	<p>運営推進会議は年6回実施している。参加者は連合自治会会長、3丁目町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、区高齢障害支援課職員、家族会会長である。事業所から活動報告や、運営状況の報告をし、意見交換、質疑応答をしている。参加者から「お雑煮のお餅はどうしているのか」「散歩は何分ぐらい行くの」などの質問が出ている。「ポポロカフェ」の参加者を増やすにはと相談したところ、習字や写真の撮影会をしてみたらどうかと、参加者から提案があった。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議・認知症カフェ・グループホーム連絡会にて意見交換</p>	<p>運営推進会議の議事録は、青葉区役所高齢障害支援課に郵送している。青葉、緑区ブロックのグループホーム連絡会や、グループホーム連絡会の有志で作っている勉強会（オレンジの会）に参加して、他事業所との交流や、当日参加している行政の担当者と顔の見える関係づくりに努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修にて身体拘束の研修を行っている。また、外に出たい方がいるときは一緒に外出を行う。	事業所のホームページに身体拘束等適正化の指針を掲載して外部へ公表している。身体拘束適正化委員会は、運営推進会議の中で具体的な事例などを取り上げ、参加者に意見を出してもらっている。管理者はミーティングで理念である「「家」を作ること」を念頭に想像するようにと職員に指導している。例えば、利用者が外に出たいときには、通常、「家」では誰もが自由に動いていることを想像し、利用者に寄り添い外に出ることを考えるなどである。身体拘束や虐待の防止については、内部研修を実施している。	理念に掲げている「「家」を作ります」を一步進めて、職員ミーティングで階段の柵が必要か、柵に代わるものはあるのかなどを話し合われることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	更衣介助や入浴介助、身体介助を行うときやコミュニケーションをとっているときにボディチェックを行い、いつもと違うことなどあれば報告をすることを徹底している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	3月にて権利擁護の研修に参加予定。その後職員会議にて研修		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書の説明を理解して頂くため丁寧に対応し「何かご不明な点があればいつでも聞いて下さい」と一言伝える		

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会に入って頂きご意見、要望などできるだけ伺い、何かあればすぐに意見を反映する。また言いにくい意見があれば、記入して入れられるご意見箱も設置している。</p>	<p>今年度は、12月に家族会の会長からの提案でクリスマス会を兼ねた親睦と話し合いの会を開催した。事業所から、今年度の看取についての報告があり、看取り後に、家族の希望で生前利用者が信仰していたカトリックの神父の司式で見送りの会を行ったことを伝えた。その時の落ち着いた利用者の様子についての話を含め、参加者からは、良いお話を聞けたと言われた。ほかの家族から、終末期に入院しても最後はボポロに戻って看取って欲しいという話もあった。家族の面会は多いが、個別に何かをして欲しいなどの話はあまりない。居室担当者が、利用者の様子を写真入りで毎月報告している。</p>	
----	---	--	---	---	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	理事長や高齢副部長が来訪する会議を月に1度開催し、施設の状況や運営状態の意見、指導、助言を受けている	勤務歴の長い職員が多く、離職はほとんどない。カンファレンスを兼ねたミーティングと勉強会を毎月行っている。時間帯を夕方からにしているので子供連れで参加する職員もいる。職員の特技を生かして係を決め、ケアやレクに取り入れている。職員から業務改善のためにシフトでペアを組む相手や、掃除時間の変更などの提案があり、実践している。現管理者は、事業所の介護職から抜擢された仲間ということで、職員が意見を言いやすく、管理者を支えていこうという雰囲気もある。管理者が重責を担うことの大変さを考慮して「夜勤に入らないで」という声が職員から上がり、2月から夜勤に入らないようになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力に応じた給与体制と有給休暇や週休2日維持。 職員間で係を持ち現場に反映している		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修の受講や外部の認知症研修に参加		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH連絡会の交換研修に毎年参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴や生活リハビリの見守り等でコミュニケーションを取り対応		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学来訪時より相談対応に応じ利用者情報を確認し入居対応またデイサービスを利用して頂き利用者同士の関係も築き、職員との信頼関係を取りながら安心して入居対応をする		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問医療や訪問歯科、訪問マッサージなども含めて必要とする支援を対応する		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各職員は居室（入居者担当）担当を決めて利用者向き合っている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、利用者状況を居室担当者や管理者など気づいたことを文章にして送っている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方など途切れないよう、ちよっと会って食事に行くなど可能な限り家族と連携して対応	共用型のデイサービスを併設しているため、デイサービスに通っていた方の入居も多くあり、職員やポポロが馴染みの場所になっている。利用者が外出や自宅に一時帰宅し戻ってきた際に、「やっと家に帰ってこられた」という方もいる。利用者の生活習慣から自宅にいた時のように、朝に化粧をし、エプロンで身支度を整えて居室から出てくる方もいる。訪問当日、来訪者をもてなすために、紅茶の給仕をしてくれた利用者もいた。職員は家族の行事（法事や結婚式）に参列する利用者の外出の支度を手伝い、家族にパッドの使い方などを伝えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置に留意したり、利用者同士で参加したイベント写真を掲示している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した方のご家族が何度か職員会議の日こられ最近の様子やご自身の近況報告など話す機会があった。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	暮らしの情報（センター方式用）等に記入して頂き職員間で共有し支援に反映する	センター方式でアセスメントをして利用者の思いや意向の把握に努めている。散歩を好まない方の家族から、子供好きであったと聞き、公園の散歩時間を子供たちの遊んでいる様子を見たり、交流ができる午後にしたところ、子供たちに話しかけたりできることから、利用者の表情が穏やかになり、笑顔が増え散歩を喜ぶようになった。また、好き嫌が多く、食が進まない方の家族から、酔の物が好きという情報を得て酔の物を取り入れたところ、食が進むようになった。職員は利用者の思いに寄り添うために試行錯誤しながら、それぞれのケアの仕方を探求し、申し送りノートで共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	私の基本情報シート（センター方式）に記入して頂き把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を引き継ぎや個人記録にて確認し把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議で行われる意見交換やモニタリングにて現状や新しい課題について検討することを努めている	月1回のケアカンファレンスで居室担当者が利用者の現状や課題を報告している。通常、短期目標は半年で見直している。職員は介護計画作成の話し合いに参加し、介護計画を把握、理解したうえで、ケアに当たっている。職員の介護計画に沿ったケアの実践が、職員間のケアの統一に繋がっている。	

27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員会議や日々の申し送りノート等の中で情報の共有に努めている		
----	--	---	--------------------------------	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者とのコミュニケーションでやりたいことなど聞き出し、その日の1日のプログラムを変更することもある		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のパン屋さんに朝食のパンを焼いて頂き利用者と共に買いに行き、お話ししたり外でコーヒーを頂いたりしている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の意向にて訪問医を利用している。かかりつけ医の方もいれば協力医療機関の訪問医、または両方の方もいる	従前のかかりつけ医に家族と受診している方が2名いる。その他の方は2か所の協力医の往診を受けている。往診医は急変時や看取りにも対応している。皮膚科の往診医の対応もある。その他の専門科には、家族同伴で通院しているが、急な対応が必要な時は、職員が付き添っている。訪問歯科医は口腔ケアや入れ歯調節などに、毎週来ている。訪問看護師が週1回、利用者の排便や、巻き爪の処理、健康チェックに来ている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が記入する連絡ノートにて訪問医や職員と情報の共有をしている。また訪問看護を利用している方は、個人記録の開示にて情報の共有、その他質問等の身体状況を伝えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関、家族等と連携し早期退院、早期受け入れができるよう努める		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明を行い、事前に意向確認をしている。訪問医や看護師等と連携をとり必要なケアの実施を努めている	入居時に「重度化対応に係る指針」を説明し、終末期に改めて医療に対する希望や「ターミナルケア及び看取りに関する指針」を説明して同意を得ている。今年度は2件の看取りを行っている。以前から、利用者全員で最後のお別れをしていたが、7月に亡くなられたカトリックの信者の家族がホームでの葬儀を希望され、行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の連絡体制を作成している、応急処置や手当の訓練は行っていない。看護師や訪問医の指示で行えることは対応していく		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	初期消火や避難訓練、通報訓練の実施。また近隣に住んでいる入居者の家族等から協力を得る連絡網の作成	毎月、初期消火、誘導時間などを課題に取り上げ、防災訓練を行っている。避難時の合言葉は、押さない・走らない・しゃべらない・戻らないと決めている。地元で消防団員をしている職員が中心になり訓練を行っている。繰り返しの訓練で職員全員が参加できることや、緊急事態への対応力が付くと考え、毎月訓練を行っている。5分以内で事業所に駆けつけられる職員も2名いる。備蓄品は近隣住民の分も考慮して多目に備えている。	地域との協力関係があることなどから、防災協定の有無の確認に加え、非常災害時には、近隣からデイサービスに通っている方や「ポポロカフェ」を利用している認知症利用者の受け入れを含め、近隣の要援護者への支援等の検討を期待します。また、日中の災害を想定し、1階の保育園との協力体制なども今後の課題として取り組まれることを望みます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	何かに失敗してもその方の気持ち落ちない言葉かけやフォローなどすることを努めている	利用者の友人や知人からの消息や面会希望の問い合わせは、必ず家族の了解を得て行っている。職員は毎年、接遇研修や個人情報の取り扱いについての研修を受け、利用者の尊厳や人権に配慮してケアに当たっている。勤務の長い職員が多いが、馴れ馴れしくならないように利用者を名字で呼ぶことや、職員間の会話も周囲に聞かれていることも考慮に入れ、互いに気を配ることを心掛けている。緊急時に使用する個人ファイルは、持ち出し用の緊急時ファイルを作り対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コーヒーやお茶など、砂糖やミルクの量はご自身で決めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間に間に合わなくてもその方のペースで起きて頂く 話題の中で何に興味があるか探りレクや話題の提供に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品は居室にて管理して頂き、お化粧をされる方は自由にできるよう努めている		

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事形態や好き嫌い、アレルギーなど他の物にて対応 盛り付けや配膳のお手伝いや洗い物などは見守りにて支援している</p>	<p>通常の食事はレシピ付きの食材が配達され、キッチン担当職員が調理している。利用者の嚥下状態に配慮してムース食も職員が手作りしている。行事食は食材を購入し、職員が手作りしている。毎月の誕生会は、赤飯、刺身、手作りケーキなどで祝っている。2月は恵方巻を利用者と一緒にお祝いした。年2回、地域の方を招いて（実費500円をそれぞれ徴収）開催する「ふれあい昼食会」に利用者也参加し、一緒に食卓を囲んでいる。利用者は、下膳や食器洗いなどできる範囲で手伝っている。</p>	<p>勤務時間中のオンとオフを分けるために利用者と職員は一緒に食事をしていません。理念の「家」の実現に向け、休憩時間の取り方や、食事介助にかかる時間などを考慮してできるだけ一緒に食卓を囲む機会を作られることを期待します。</p>
----	----	--	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録に水分量や食事量、排せつ記録などを記入する		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアや夕食後の入れ歯洗浄の実施 また週1日歯科往診がきている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄習慣を確認し個別に対応している	トイレはフロアに3か所、いずれも清掃が行き届き、車いすが入る広さがある。自立してトイレに行かれる方が4名、そのうち布パンツの方が2名、リハビリパンツの方が2名、オムツで全介助の方が1名である。そのほかの方はトイレ介助をしている。夜間は睡眠を優先しているが、1時間おきにトイレに起きる方がいて見守りで対応している。外出時はパットの大きさを変えたりして対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べ物や運動を行い留意している また訪問医とも連携し相談できる体制に努めている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	温度や入浴時間を皆さんそれぞれ好みに合わせている 拒否のある際は時間を置いて再度声掛けまたは曜日変更にて対応している	入浴回数は週2回を基本とし、時間は午前中としている。フロアに2か所浴室があるが、以前は1人で入浴をしていた方も、見守りが必要となり、今はリフトのある広い浴室で入浴している。リフト浴を備えているため、職員の負担も軽減され、車いすの方も無理なく浴槽に浸かることができている。浴室、脱衣場はエアコンなどでヒートショックに備えている。柚子湯や菖蒲湯、職員との1対1の会話は入浴の楽しみになっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調不良や傾眠時は休息して頂いている、お昼寝される方もいるのでその都度対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容の確認と変更時の周知する（引継ぎノート等） 服薬の際は職員2人にて二重のチェックを行う		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のレクに参加（かるたの読み手やピアノを弾き皆さんで歌う等）ボランティアさんとの交流		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩や買い物に出かけている ボランティアさんと共に公園の清掃、お花見、外食など支援している	天気の良い日には日常的に散歩や近くのパン屋、公園に出かけている。利用者が「あんみつが食べたい」という思いの実現に、散歩を兼ねて駅まで歩いて出かけている。毎週日曜日には公園の清掃に利用者も参加をしている。季節の行事として花見、地域ケアプラザの文化祭、映画鑑賞、ブドウ狩りなど多彩な行事を企画して、外出の機会を作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ぶどう狩りや歯磨きなどご自分で支払い、おつりを頂くところを見守っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分からかける事はないが稀に親族からかかってくる時に電話の取次ぎはおこなっている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生花を飾り、食事席からソファに移り好きな場所で穏やかに過ごしていただいている	1階玄関から吹き抜けになったリビングは、三角屋根の高い天井に明り取りの3か所の天窓があり、しゃれた雰囲気がある。階段は広く、1段が低い造りで、踏み面の端には赤いテープの滑り止めを張り、事故防止対策をしている。フロア中央のリビングとキッチンを中心に左右に居室や事務室、職員休憩室などがある。リビング内は大型の空気清浄機のついた加湿器2台とエアコンで温湿度管理をしている。共有部分の手に触れる場所は次亜塩素酸の希釈液で拭き上げ、感染症対策に努めている。階段の踊り場には顔写真入りの職員の紹介や季節の貼り絵、習字などの作品を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由な席で過ごしたい方や固定の席で過ごしたい方などそれぞれ思い思いの所で過ごして頂いている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や好きなカーテンなど自由に持ってきていただいている。居室内にてお好きなものも家族が持ってきて召し上がっている	居室にはカーテン、特殊寝台、ロッカー、エアコン、照明が備え付けられている。利用者は整理ダンスや化粧台、机や椅子などの家具や、テレビ、仏壇などの調度品を持ち込んでいる。自宅にいた頃を彷彿できるような書斎の雰囲気のある居室や、家族の思いで極力物を少なくしている居室などそれぞれである。利用者は旅の思い出の自筆の絵や、家族の写真を飾って思い思いの部屋にしている。	

55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活リハビリ（各居室の掃除、洗濯物たたみと収納、モップ掛け掃除機かけ、洗濯物干しなど）の見守り、声掛けなど支援		
----	--	---	---	--	--

目標達成計画

事業所名 市が尾ポポロ作成日: 平成 31 年 4 月 11 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	35	・災害時の備蓄品の管理不備 ・1階保育園との合同避難訓練の未実施	・備蓄品リストの作成 ・保育園との合同避難訓練の実施	・リストを作成し、毎月防災担当スタッフが賞味期限等確認する。 ・保育園と避難訓練の日程調整し実施	2020年4月～ 2021年3月末
2	33	・看取りの計画書と振り返りの未作成	・看取り期の計画書の作成。 ・看取り後の振り返り	・看取り期に入ったらご家族・主治医・ケアマネで話し合いを持ち計画書を作成する。 ・看取り後、ご家族にアンケート形式のお手紙を送り良かった点、改善点の振り返りをする。	2020年4月～ 2021年3月末
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加してください。